

「(香港中文大学サマープログラム) 参加報告書」

京都大学文学部1年 (氏名) 白井愛美

私が今回参加した香港中文大学サマープログラムは、3週間中国語の集中講義を受け、主に語学の上達を目指すものです。中国語を学びたいという意欲はあるものの自分で学習を進めることに少し苦勞していたので、帰国後の自習のモチベーションに繋がれば良いという期待を込めてプログラムに参加しました。一番の目的は参加後の学習に繋げる、ということだったので3週間の短い間に「中国語能力を上げる」ということは参加前それほど期待していませんでした。しかし、授業が始まるとそれは想像以上に集中的で徹底的なもので、短期間で語学力をあげるに相応しい内容でした。第一に授業は少人数で行われます。私が受けた授業も学生は15人程度で、ペアワークやグループワーク、先生に指名され一人で話す、などとにかくすべての学生が中国語を話す機会をたくさん持つことに焦点が当てられていました。私が受けた授業はレベルとしては下から2つ目の初級クラスでしたが、4月から中国語の勉強を始めた自分にとっては新しい文法事項も多く、その新しく習った文法を使ってとにかく話すことを中心に授業が進められたので新しい内容も自然と頭に入ってきました。初学者にとって、文法事項を頭に叩き込もうとするときに一人では怠りがちな音読を徹底してやったからだと思います。また学校で使っている中国語の教科書を持っていきましたが、それを見るとこれから大学で習う内容のほとんどがプログラム中の授業で扱われており、大学の授業の予習も容易になっていることを実感しました。参加する前は自習がなかなか進まない、というレベルでしたが3週間の集中講義を受けたことで帰国後の勉強がしやすくなったので参加後の学習に繋がる良い学びであったと感じています。学校の外では自分が想像していたのと違いほとんど英語が使われておらず、レストランや窓口などで苦勞することがありました。しかしこれは香港なら英語で何とかできるだろうと想定していた自分の考えが傲慢であったと考えを改め、他の国などに行く場合もなるべく現地語を話そうとする態度を見せようと思いました。

また、語学の勉強以外にたくさん学ぶことのあった研修でもありました。京都大学からは学部1回生から修士課程2回生までの計9人で一緒に渡航し、プレゼンを共同で作成したり休日に観光に行ったりしました。その中で、学年や学部の異なる人たちと一緒に3週間過ごすことができたのはとても貴重な体験です。行動力のある同級生や上回生と過ごし、色々な話をすることでこれからの大学での勉強の刺激になりました。

この3週間は語学の勉強だけでなく、大学での勉強についても色々考える機会になったのでとても意味のあるものとなりました。ありがとうございました。